



# ★羅針盤 No.27

**東港金属株式会社**  
東京都大田区京浜島2-20-4  
電話 03-3790-1751  
URL <http://www.tokometal.co.jp>  
(見学受付)  
電話03-3790-1751 又は 各営業担当

6月と聞くと、梅雨が頭に浮かびます。関東地方の平年の梅雨入りは6月8日です。鎌倉の明月院では梅雨の時期にふさわしい紫陽花が門前を青く染めているとのニュースです。  
いよいよ暑さ対策がはじまりますが、東京電力の電気料金値上げのニュースは、その是非が問われています。消費者側はとにかく節電の工夫を怠りません。節電対応として、環境省では5月から始まっているクールビズのキャンペーンを6月からは「スーパークールビズ」と銘打って、従来から訴求している室温28℃や軽装といったクールビズの取組をさらに徹底し、日常の様々な工夫で快適に過ごす取組を推進。今年度は、一人一台のエアコンの使用をやめ、涼しい場所をみんなでシェアする「COOL SHARE」をコンセプトに追加しています。  
産業廃棄物の排出事業者の取り組みとしても、不要物をこまめに分別し、リサイクル処理することにより、事業場の風通しを良くして冷房の使用量を下げるといのも一考に値します。

東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物の処理をお受けいたします。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



## ★羅針盤

## 鉄・非鉄スクラップ・市況からの6月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 5月は、指標となる東京製鉄宇都宮工場の特級価格が32,000円/トンでスタートしたものの、最終的には30,000円/トンまで下がり、まだまだ下がる勢いです。6月に関しては、まだまだ世界の情勢不安から輸出価格も急落、電力値上げ等の要因からみて、間違いなく下がるでしょう。
- 銅** → 考察) 5月は、LME8,500ドル/トン、国内銅建値710,000円/トンでスタートし、5月末時点では、LME7,500ドル/トン、国内銅建値660,000円/トンまで下がりました。6月は、EUの債務危機をめぐる懸念が強いことや、米国で発表された経済指標も景気失速であることから、良くなる要因は出てこない為、まだまだ下がると思われます。
- アルミ** → 考察) 5月のLMEは、2,060ドルでスタートしたものの最終的には、2100ドル台まで落ち込みました。自動車の生産は、増加しているものの、アルミ新塊の価格が低いことからスクラップの需要が減っていることもあり、6月は、下がると思われます。
- プラスチック** → 考察) 原油価格が5月31日、8か月ぶりの安値83ドル/1バレルを記録し、しかも円高が進んでいることから、下がる要因は強いと思われます。

5月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	×
銅	×	プラスチック	○

## ★羅針盤

## 電力値上げによる影響

東日本大震災以降、原子力発電所が相次いで運転停止となり、火力発電への依存度が高まっているため、輸入燃料の高騰とあいまって、各電気事業者の収支を悪化させている。東京電力は今年4月1日から産業部門の電力料金の値上を実施し、2カ月を経過した時点で値上げに合意した企業は7割近くにまで達しているとの報道である。  
電力値上げの影響はどの業界も避けられず、リサーチ会社の調査を見ると、電力不足が国内産業の六重苦\*の一つにあげられるなど、電力値上げが産業競争力を低下させる導火線になることは確かであり、特に、電力を多量に消費する製造業等への影響が大変懸念されている。

電炉業界では、スクラップを電気で作るため、製造コストの25%が電気代といわれるほど依存度が高く、今回の電力料金の値上げで、電炉最大手の東京製鉄では年間8億円程度のコスト増となるとのこと。

当初東京製鉄を含む管内の電炉メーカー15社は「業界の淘汰(とうた)に直結する」と値上げに反対していたが、報道によれば、東京電力以外に電力を安定供給してくれる業者はないことから、抵抗は続けられず、新料金を受け入れることとして契約したとのこと。  
しかし、電力料金の値上げで「上場している電炉メーカーは全社が赤字に転落する」との強い懸念を示している。

電炉メーカーは、電気料金の値上げを受け入れることにより、生産コストのアップが想定され、その対応としてスクラップの仕入れ価格の値下げにつながると発表していることから、多くのスクラップを扱う廃棄物業界への影響も測り知れない。

また、当然ながら、他の中小企業への打撃も大きく、東京・大田区の大田工業連合会では「電力料金値上げで、小規模工場の廃業が増えた」と言っており、多くの業者が値上げを受諾しながらも、それを直ちに製品へのコスト転化はできないと悲鳴を上げている。

東京電力は、産業界のみならず一般家庭の電力料金も7月からの値上げ通知を出しており、各家庭に配布されたパンフレットには、企業努力をしたうえでのご希望ですとの記載があるが、公聴会では、企業努力が見えないとの声ばかりが聞こえてくる。いまは、政府がどう判断するか注目が集まっている。

電力料金の値上げが私たちの生活を一変させようとしている。今私たちが出来ること、それはいかに電気の使用量を節約するかにかかっている。電球一つでもこまめに消すことしたい。

(参考文献) 日本総研:電力料金上昇の影響とその対策  
フジサンケイ ビジネスアイ:5月29日)

\*六重苦:企業経営者が諸外国と比べて日本の事業環境が不利な要素としてあげる6項目。一般的には、▽円高▽高い法人税率▽自由貿易協定への対応の遅れ▽製造業の派遣禁止などの労働規制▽環境規制の強化▽電力不足。

## 京浜島日記 (第13回)



東京もいよいよ梅雨入りしました。工場の緑地帯の紫陽花も色彩豊かに咲いております。私個人的には、どちらかといえば暑さに強いので、これから自分の季節だと思うと何だか体も動いてくるようです。

さて5月は、欧州最大規模の環境展であるIFATがドイツのミュンヘンで開催されたため、訪問してきました。展示品は似たような物で構成されておりましたが、一つ大きな流れを感じた話がありました。

欧米といえば、リサイクル設備については先進的であり、大型化が進んでおりました。

シュレッダーでいえば8千馬力、1万馬力といったモンスターマシンが据え付けられ、稼働しています。ギロチンシャーにおいても切断圧2000トン、3000トンクラスが多い印象でした。BRICSの一角であるロシアでは今でもそのような超大型プラントの計画が進んでいます。

一方、ドイツ、イギリス、フランスなどでは、その流れが変わりつつあるのではないかと、機械メーカーの方々の話を聞いていくうちに、超大型化ではなく、適正サイズの追求という考え方に変わりつつあるような印象を受けました。なぜなのか? ここからの推察の結果は次号にて記したいと思います。(代表取締役 福田 隆)

## ★羅針盤

## 再生可能エネルギー

一度でも今回の大震災のような事故を起こしたら回復させることが困難な原子力や、資源が有限で枯渇性の石炭・石油などの化石燃料をエネルギーに変えている火力発電に未来永劫頼ることは不可能です。これからは再生可能エネルギーによる発電方式の研究開発が加速度を増していくようになるでしょう。

既に多くの家庭で取り入れている太陽光発電だけでなく、再生可能エネルギーには風力発電、波力発電、海洋温度差発電、潮力発電、地熱発電、ゴミ(RDF発電)、そして、雪氷熱利用をするという思いがけないエネルギー利用方法もあります。雪氷熱利用とは冬の間に降った雪や、冷たい外気を使って凍らせた水を保管し、冷熱が必要となる夏季に利用するもので、雪氷熱利用の冷気は通常の冷蔵施設と異なり、適度な水分を含んだ冷気であることから、食物の冷蔵に適しているとのこと。大量の積雪の悩みをメットに変えるという訳です。

皆で発想を転換して身の回りを見てみましょう。思いがけない発見につながるかも知れません。